3,11 震災被災者支援 in ところ報告書

平成 23 年 8 月 8 日～8 月 18 日（10 泊 11 日）

財団法人　北海道地域活動振興協会

まちづくり推進補助金助成事業

写真提供　札幌市　吉田泰三　氏（撮影場所　福島県南相馬）

特定非営利活動法人　自然体験村

虫夢（ﾑｰﾑｰ）ところ昆虫の家

はじめに

平成 23 年 3 月 11 日東北地方に大地震が発生、地震による大津波、原子力発電メルトダウンなど世界最大級の被害になった。この被害は自然災害、人的災害、自然環境など最大限に共有しなかった人類が招いた人災と言えよう。

目的及びその概要

３，１１震災被災者（家族・子供）15 名を招待し、道東オホーツク沿岸を舞台に自然体験活動を通じて癒しの場を提供する。

主な取組み活動

被災した青少年・家族を招待し、特定非営利活動法人自然体験村 「虫夢（ﾑｰﾑｰ）ところ昆虫の家」で宿泊しオホーツク海サケ定置網漁・ホタテケタ引き漁・農業機械体験（トラクター操作体験・コンバイン麦刈り体験・農業機械説明・ビニールハウス探索）・建設機械体験（ユンボ操作・ブルトーザー操作）・ジャンボブランコ体験・いもほり体験・野天五右衛門風呂体験・落語体験（橘屋　富蔵）・巨木探索・オホーツク海探索・サロマ湖探索・常呂デーサービスセンター訪問・盆踊り太鼓参加・仮想盆踊り参加・花火大会・ミステリーバス（オシンコシンの滝・知床自然センター・知床峠・ラウス展望台・サーモン科学館・開陽台・摩周湖・硫黄山・美幌峠）のっけの湯体験

支援協力団体

この活動には地域の企業、北見消防署、常呂総合支所、留辺蘂総合支所、端野総合支所、北見市健康推進課、網走中部森林管理署・会津大学社会福祉学科・山口県人間いきいき研究会・常呂漁業協同組合・常呂町農業協同組合・きたみ市商工会・リョーセキ・株式会社 ダイセー陸運・有限会社 鈴木重機・株式会社 たいせつ・農業法人 ひかり

ボランティア協力者

竹内ひかる（神奈川県）・友廣彩夏（兵庫県）・相原京子（北見市）千葉文子（北見市）森田英子（北見市）大西次雄（北見市）

義　援　金

ところ★こころプロジェクト・・・義援金（常呂町）　8,500 円

常呂ライオンズクラブ・・・・・・義援金（常呂町）　30,000 円

浦西新聞店・・・・・・・・・・・義援金（常呂町）　12,516 円

大沢満知子・・・・・・・・・・・義援金（常呂町）　5,000 円

上川貴之・・・・・・・・・・・・義援金（常呂町）　5,000 円

若原和政・・・・・・・・・・・・義援金（常呂町）100,000 円

三島千鶴子・・・・・・・・・・・義援金（常呂町）　10,000 円

佐藤国昭・・・・・・・・・・・・義援金（常呂町）　10,000 円

生きがいディサービス一同・・・・義援金（常呂町）　12,500 円

小笠原征二・・・・・・・・・・・義援金（常呂町）1 0,000 円

相田典子・・・・・・・・・・・・義援金（常呂町）　10,000 円

ホタテチャンシールカンパニー・・義援金（常呂町）　10,000 円

友廣彩夏・・・・・・・・・・・・義援金（神戸市）　500 円

合計　　２２４，０１６円÷４＝５６，００４円

1 家族に 56,000 円支給する

残金 16 円は事業活動資金に当てる。

物資提供

北見市春光町　黒宮
敷布団・・・・2枚　　掛け布団・・・1枚　　枕・・2個

北見市常磐町　武山
敷布団・・・・2枚　　掛け布団・・・3枚　　枕・・4個
タオルケット・3枚　　毛布・・・3枚　敷布・・1枚

北見市仁頃　　朝野
敷布団・・・・2枚　　掛け布団・・・1枚　敷布・・・4枚
布団カバー・・・1枚

北見市　　原田
敷布団・・・・1枚　　掛け布団・・・1枚　　毛布・・・1枚
タオル・・・・15枚

北見市柏陽町　渡辺
寝袋・・・・・2個

常呂町　　上杉・・・・・・帽子他

常呂町　　管理職会
布団・・・・3組

食料等提供

常呂町　　上杉・・・・・・ジュース・その他

東京都　　落語家　橘屋　富蔵・・・・ジュース

北見市　若原一公･････スイカ

佐呂間町　野瀬・・・・菓子

常呂町　森田・・・・・アイス

端野町　津幡・・・・・メロン

常呂町　伊藤博昭・・・玉葱

常呂町　川上和則・・・玉葱・ニンニク・キュウリ・ビール

常呂町　澤向悦子・・・北海シマエビ

北見市　相原・千葉・森田・・・お菓子（ほっちゃれ）

常呂町　山口泉一・・・・アイス

常呂町　忠津信征・・・・魚など

常呂町　清井兼太郎・・・アイス・ジュウス提供（カフェザ　ホーリーポイント）

常呂町　佐藤国昭・・・・アイス

常呂町　管理職会・・・・ブドウ

企業支援

株式会社　たいせつ・・・・期間中のっけの湯開放

株式会社　ダイセー陸運・・建設機械操作体験（ユンボ・ブル）

常呂町農業協同組合・・・・期間中マイクロバス無料提供
組合長・・いも堀体験

常呂漁業協同組合・・・・・船舶提供　　マス定置網漁・ホタテケタ引き漁

北見市商工会・・・・・・・盆踊り太鼓練習

農業法人ひかり・・・・・・農業機械操作体験・農業機械説明・・ハウス開放

北見市・・・・・・・・・・職員派遣　給食指導・健康管理指導・活動指導・消防職員

有限会社　鈴木重機・・・・社員派遣(若原和政 10 日間)

リョーセキ・・・・・・・・期間中プロパンガス無料提供

３・１１震災被災者支援 in ところ

プログラム

月　　日	午　　前	午　　後	夕　　方
８／８　月	福島県会津若松出発	バス移動	仙台港フェリー乗船
／　９　火	苫小牧港到着	バス移動昆虫の家	歓迎夕食会
／１０　水	マス定置・ホタテケタ引き見学	いもほり体験	盆踊り太鼓練習
／１１　木	マス定置・ホタテけた引き見学	そうめん流し ジャンボブランコ	盆踊り太鼓練習
／１２　金	巨木探索	デーサービス訪問 100 年記念塔 コンバイン体験・落語教室	盆踊り太鼓練習
／１３　土	農業機械操作体験	ビニールハウス探索 サロマ湖・オホーツク探索 カフェザ　ホーリーポイント	盆踊り太鼓練習
／１４　日	建設機械操作体験	太鼓の練習	子供盆踊り・花火大会
／１５　月	ミステリーバス	ミステリーバス	夕食　すき家
／１６　火	帰途準備	ポスフール探索 のっけの湯	お別れ夕食会
／１７　水	小樽港向け昆虫の家出発	バス移動	小樽港フェリー乗船
／１８　木	新潟港到着	出発地福島県会津若松到着 解散	

地域の企業など多くの人々の協力により全日程を無事終了出来た事に心より感謝申し上げます

活動写真　福島県会津若松市集合場所より仙台港向け出発（8 月 8 日）

仙台港に無事到着船の中ラウンジにて・・・

8月9日

船の中

苫小牧港から昆虫の家に無事到着

開　会　式

昆虫の家　理事長　川上和則挨拶

被災者代表　金井峰子挨拶

乾杯・・常呂町農業協同組合長　小野寺俊幸

歓迎夕食会

北海道のジンギスカンは？

8 月 10 日・11 日

常呂漁業協同組合提供・・マス定置網漁・ホタテケタ引き漁・・体で感じろ！

小野寺組合長提供・・いもほり体験（期間中の食材）

昼はそうめん流し・・美味しいかな？

とっさん達は時間を見つけて巨木探索の人運搬具を作成しています。

ジャンボブランコ体験・・何かを体で感じてください

のっけの湯　期間中無料開放
株式会社　たいせつ　有難う

盆踊り太鼓の練習

８月１２日

朝のラジオ体操

朝食

巨木探索（網走中部森林管理署案内）

休憩しながら巨木を求めて！

樹齢約 300 年の巨木に挨拶・・風雪に耐えた巨木から大きなエネルギーを頂きました

生きがいデーサービス一同から義援金を頂き・・みんなで歌を歌いました

常呂町 100 年記念塔

農業法人　ひかり　コンバイン麦刈り体験

落語家　橘屋　富蔵　落語教室

夕食風景・・みんなで後片付け

盆踊り太鼓
の練習

８月１３日

朝のラジオ体操

農業法人　ひかり　トラクター操作体験

農機具説明

ビニールハウス探索

川上理事長宅ビニールハウス探索・・美味しいね・・

サロマ湖探索

オホーツク海探索

常呂漁業協同組合売店ホタテ賞味

常呂町日吉　清井兼太郎　無料招待美味しく頂きました・・有難うございます。

常呂町日吉　カフェザ　ホーリーポイント　アイス・ジュース提供

8月14日

朝のラジオ体操

朝食準備

小笠原の森探索

火山灰山にて建設機械操作

建設機械操作体験　・・株式会社　ダイセー陸運提供

ところふるさとまつり盆踊り・太鼓叩き・仮装盆踊り参加

癒されるかな？

盆踊り会場にて・・

仮装盆踊り参加・・巨木探索を再現 300 年の歴史を伝える

太鼓を叩く被災者・・地震・津波・原子力発電事故を乗り越え・・（地震）自信を持つのだ

みんなの頑張りで４等に入賞しました！！

花火大会参加

8 月 15 日

朝食

ミステリーバス

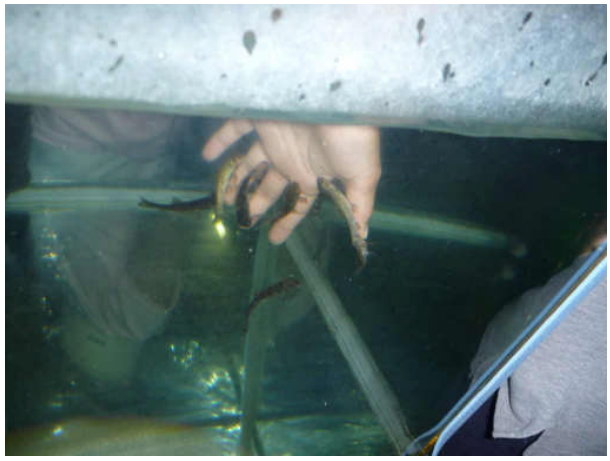
オシンコシンの滝

知床自然センター

知　床　峠

ラウス展望台

中標津コンビニで昼食を購入サーモン科学館で食べる



サーモン科学館探索

摩　周　湖

硫　黄　山

美　幌　峠

夕食　すき家

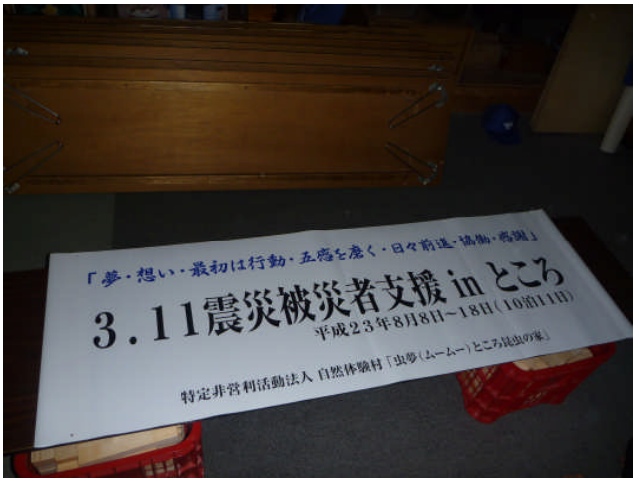
8 月 16 日

雨のため体育館でラジオ体操

朝食準備風景

朝食美味しく頂きました

お別れの日が近づいて来ました。垂れ幕に寄せ書きをして下さい。



木　暮　家

鈴　木　家

金　井　家

大　野　家

10 泊 11 日３，１１震災被災者支援 in ところ集合写真

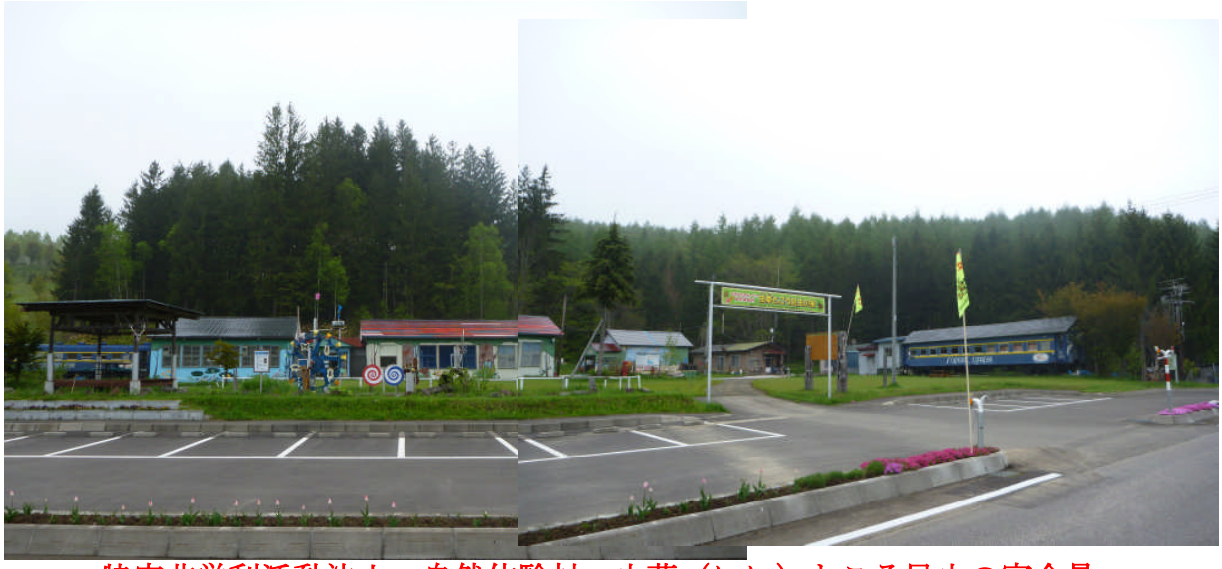
北見市　ポスフール探索（お土産買ったかな？）

お別れ夕食会

北海道北見は焼肉の美味しい処です。美味しいか？

森のクマさのウクレレで癒しの一時有難うございます。

8 月 17 日　　朝 2 時 30 分　参加者はバスに乗り小樽港向け出発



特定非営利活動法人　自然体験村　虫夢（ﾑｰﾑｰ）ところ昆虫の家全景

8 月 18 日午前中に参加者は無事出発地、会津若松に到着しました。この企画に協力して頂いた方々に心より感謝申し上げます。

新聞掲載切抜き

北海道新聞　2011年（平成23年）7月28日（木曜日）

列車を利用した寝室や、手作りの水車が並ぶ昆虫の家

北見のNPO「虫夢」

福島の15人受け入れ

夏休み安全に楽しく遊んで

寝具の提供も呼び掛け

東日本大震災の被災家族に「夏休み」を―。北見のNPO法人、自然体験村虫夢（むし）ところ昆虫の家（川上和則理事長）が8月8～18日に福島県の4家族15人を受け入れ、ジャガイモ掘りやホタテ漁見学、ホタル観察など北見ならではの体験活動でくつろいでもらう。（相川康暁）

福島第1原発事故の影響で、子どもたちが屋外で遊ぶことが難しくなっている現状から、安全な北見で過ごしてもらおうと企画した。道が被災者の交通費、昆虫の家が滞在費を負担する。

訪れるのは子ども9人と大人6人、介護のボランティア2人。滞在中はジャンボプランコで遊んだり、常呂町の森林内の巨木散策、トラクターやパワーショベルの操作体験など盛りだくさんの催しでもてなす。1棟4畳半のキャビンに泊まり、五右衛門風呂も楽しんでもらう。

常呂町吉野にある昆虫の家の施設は、1989年に小学校の旧校舎を常呂町の住民が修繕したもの。遊具も住民の手作り。周辺に街灯はなく、携帯電話も通じない。道内外の子どもたちを中心に受け入れ、野外活動などを展開している。

管理人の若原和政さん(62)は「不便な場所だが、子どもも多いので楽しんでもらえるはずです」と一行の来訪を待ちわびている。

昆虫の家は受け入れにあたって、新しい寝具15組の提供を市民に呼び掛けている。問い合わせは昆虫の家☎0152・57・2221か若原さん☎090・8632・0995へ。

2011年（平成23年）8月11日（木曜日）　北海道新聞

ジャガイモの収穫楽しいね

福島の4家族「夏休み」

北見・NPO招待

東日本大震災で被災した福島県の4家族15人が9日夜、北見市内のNPO法人、自然体験村虫夢ところ昆虫の家（川上和則理事長）の招きで、同法人の宿泊研修施設に到着した。17日まで滞在し、「夏休み」を満喫する。

福島第1原発事故の影響で公営住宅などに避難中の被災者に、野外活動を楽しんでもらおうと企画した。

10日は早朝から地元でホタテ漁とマスの定置網漁を見学。近くの農家で子ども9人と大人6人がジャガイモの収穫体験も楽しんだ。

畑で多くのイモを収穫した木暮真瑚さん（9）は「ジャガイモのみそ汁が大好き。食べるのが待ち遠しいです」と話していた。

滞在中は周辺の森林散策や網走市での観光、トラクターやパワーショベルの運転体験も楽しむ。（相川康暁）

大人も子どもも協力して楽しんだジャガイモの収穫体験

毎日新聞　2011年（平成23年）8月11日（木）

★北見・被災者家族招き交流　東日本大震災で被災した福島県双葉町、相馬市の4家族15人が、NPO法人が運営する北見市常呂の自然体験村「虫夢（ムームー）ところ昆虫の家」に招かれ、北国の夏を楽しんでいる＝写真。

被災者に心のリフレッシュをしてもらおうと、同法人が道の補助を受けて企画した。一行は9日夕に現地に到着。10日は近くの農場で初のイモ掘り体験をした。金井琴音さん(9)、鈴木琴音さん(10)、大野胡桃さん(9)の3人組は「ハート形のイモをみつけちゃった」と大はしゃぎ。19日まで滞在し、ホタテ漁、巨木探索、星空観察、子ども盆踊りなどのプログラムが予定されている。

北海道新聞　2011年（平成23年）8月18日（木曜日）

北見の夏満喫し出発

福島の4家族「貴重な体験できた」

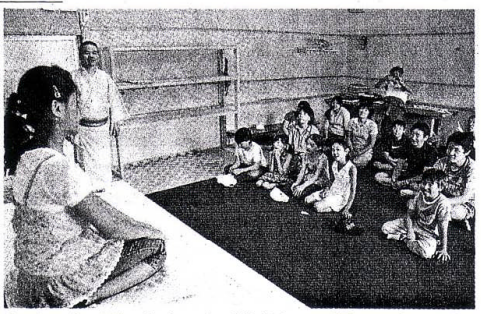
短い「夏休み」が終わった―。東日本大震災で被災した福島県の4家族15人が17日未明、一時滞在していた北見市常呂町のNPO法人・自然体験村虫夢（むーむー）ところ昆虫の家（川上和則理事長）の宿泊施設を出発。ジャガイモ掘りやホタテ漁見学など盛りだくさんの体験に、参加者は「忘れられない体験ができました」と別れを惜しんでいた。（相川康暁）

震災後の福島第1原発事故により避難している被災者に安全な北見で休んでもらおうと同法人が企画。9日から子ども9人と大人6人、学生ボランティア2人が滞在した。

漁見学やイモ掘りのほか、トラクターなどの機械操作、ホタル観察、道東観光などを満喫。常呂町出身の落語家橘家富蔵さん(55)も12日に慰問に訪れ、古典落語の「時そば」を披露。言葉遊びの寿限無を全員で楽しんだ。

長女楓さん(11)、次女胡桃さん(9)と滞在した大野裕子さん(41)は「スケジュールは過密だったけど、自然の大切さをあらためて実感できた。福島の身近な自然も思い出せました」と振り返る。胡桃さんも「知床で友達におみやげをたくさん買えたの」と笑顔を浮かべた。長女琴音さん(10)、長男博士君(7)と参加した鈴木春江さん(46)は「被災した現実を忘れる体験ができた」と話す一方、「まだ福島は大変。一日も早い復興が望みです」と強調。今も仮設と避難住宅での生活を余儀なくされている人々の気持ちを代弁した。

同法人事務局の若原和政さん(62)は「北見市民からの義援金21万円も贈ることができた。大勢の人が支援してくれました」と感慨深げだ。15人はフェリーで新潟へ向かい、18日福島県に到着する。



北見市常呂町出身の橘家富蔵さんの指導で落語も体験

滞在を記念して一言ずつ書き入れた横断幕を持つ参加者たち（昆虫の家提供）

漁見学やイモ掘り、落語鑑賞…

被災家族 自然を満喫

北見のNPO招待 星観察や農業体験

▲ジャガイモを掘り出し喜ぶ福島の子どもたち

福島第一原子力発電所事故のため避難生活を続けている4つの家族がこの夏、北見市常呂町に1週間余り滞在して豊かな自然や農業体験などを楽しんだ。

北見市のNPO法人「自然体験村　虫夢(むむ)ところ昆虫の家」(川上和則理事長)が、避難生活でたまった疲れを癒やしてもらおうと、地元の農協などの協力を得て企画した催し。

福島県の楢葉町と南相馬市から4家族15人が参加し、8月9日から17日まで滞在した。いずれも福島第一原発の半径20キロ圏内に自宅があり、会津地方で避難生活を強いられている人たち。滞在先は、廃校跡を活用した同法人の活動拠点・昆虫の家で、往復の旅費は道の補助でまかなった。

期間中、用意されたメニューは、建設機械の操作体験、盆踊りの太鼓の練習、星空の観察、巨木の探索、花火大会など。「地元の方々の協力がないと体験できないものばかり」と参加者にも好評だった。

常呂町の農場で一行がジャガイモ掘りを体験したのは、来訪翌日の10日。

子どもたちは、茎を持って引き抜き、イモが出て来ると大喜び。楢葉町から会津若松市の旅館に避難している小学5年生大野楓さん(11)は、「収穫機械を使うと、手で取り残したイモがたくさん出てきて面白かった。食べるのが楽しみ」と目を輝かせた。

南相馬市で接骨院を経営していたという木暮英一さん(52)は、妻、子ども2人と参加。「普通の観光旅行では体験できない内容ばかり。お言葉に甘えて楽しんでいます」と話していた。

北海道新聞（夕チリ）　2011年（平成23年）9月10日（土曜日）

まど

赤鬼の笑顔

「赤鬼」が笑顔で手を振った。「元気でな。せいせいするわ」。北見市常呂町のNPO法人・自然体験村虫夢（むーむー）ところ昆虫の家事務局長で、「赤鬼」こと若原和政さん(62)は見送るバスに手を振り続けた。

8月9～17日、同法人の宿泊施設に福島県の4家族15人が滞在した。福島第1原発事故で「屋外で遊べない子供たちに夏休みならではの体験をしてほしい」と同法人が受け入れ、若原さんも一緒に寝泊まりした。

いつも赤いつなぎを着込み、赤鬼を自称する若原さん。「おまえら、ちゃんと言うこと聞け」「早く行動しろ」と話し方は荒っぽい。だが、飾らない言葉は本音で人と付き合う気持ちの表れだ。

ホタテ漁見学やジャガイモ収穫など、雄大な自然の中で楽しむ子供の姿がうれしかった。ダンプカー運転手の仕事の傍ら、施設管理や自然教室など同法人の活動を約20年続ける原動力でもある。

15人が一言ずつ書き入れた記念の横断幕。「厳しい言葉だけど温かかった」「また友達と来たい」。そんな言葉が並ぶ。

「明日からはまた仕事だ」。見送った後、そうつぶやいた若原さんは、少し寂しそうだった。

（相川康暁）

皆さん元気に過ごしていますか?、とっさんは昆虫の家管理しながら、相変わらず日々ダンプに乗り働いています。皆さんと過ごした9日間を色々思い出しながら写真整理・ビデオ編集など行いやっと完成しました。まだ道に提出する書類は出来ていませんが順時作成し提出する予定です。皆さんも生活など大変だと思いますが日々有意義に過ごし頑張ってください。

写真はとっさんが乗ってるダンプ作業風景です。多いときには6百キロ走ります燃料は百七十リッター使用します。